

シュリーマン生誕 200 周年～シュリーマンの見た“桑都”八王子の魅力を発掘～

団体名 創価大学 文学部インターゼミ桑都プロジェクト

代表者名 古舘優香

① 事業内容

私たちは、文学部の様々なゼミから人員を集い、織物の街である八王子の別名「桑都」から名前を取り、文学部インターゼミ桑都プロジェクトとして活動してきました。

今年度は、シュリーマンの生誕を梃にした事業を、『シュリーマン生誕 200 周年～シュリーマンの見た“桑都”八王子の魅力を発掘～』と題し、シュリーマン生誕 200 周年を記念して、シュリーマンが訪れた八王子の魅力を発掘して街を活性化させることを目的として実施してきました。

桑都プロジェクトは、学内からシュリーマンへの理解を深める活動、地域に密着した企画、SNS を用いた桑都プロジェクトの広報活動という三つの柱に沿って活動しました。

② 実施報告

一つ目の柱として、学内でシュリーマンの理解を深めるために読書カフェを行いました。読書カフェはオンライン開催で、集まった人と共にシュリーマンに関する本を読みながら、シュリーマンと八王子の関連性やシュリーマンについて話し合いました。

二つ目の柱である地域に密着した企画では、八王子駅北口商店会や都まんじゅう、くまざわ書店等とご協力いただき活

動しました。

七夕まつりでは、八王子駅北口のマルベリーブリッジにイラストを飾らせていただきました。織姫と彦星の再会のシーンに蚕が隠れています。蚕は感じて「天の虫」と書き「桑都」と呼ばれていた八王子をイメージするために描きました。

くまざわ書店では、八王子やシュリーマンに関連する本を選書した、選書コーナーの設置を行いました。九月に行った選書コーナーでは、シュリーマンが語学に長けていることから語学本、八王子とシュリーマンなどを中心に本を選び、関連するチラシやポスターポップを制作し、本棚のレイアウトも各々で考えました。二回目に行われた選書コーナーでは、売れている本と入れ替える本を分け、工夫して設置しました。



東京富士美術館では、古代エジプト展の展示品の搬入を取材し、広報のサポート活動を行いました。また、記念品としてしおりの作成や、展示品の出品元である国立ベルリン博物館群がシュリーマン・コレクションを所蔵しており、来日した同エジプト館副館長にシュリーマ

ン・コレクションの由来についてインタビューをしました。

八王子のご当地グルメで有名な都まんじゅうでは、シュリーマンのイラストの焼印が入った「シュリーまん」を販売していただきました。このシュリーまんは、10個入りの中に2個入っており、期間限定で販売しました。シュリーマンのイラストは学生が描き、焼き型を作るためにイラストの線の太さを工夫しました。創価大学内でもシュリーまんを販売し、好評で即座に売り切れしました。



まちなか休憩所八王子宿では、Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会と共に展示をしました。私たちの展示では、「ドイツと八王子・知られざる交流展～シュリーマンと肥沼信次～」をテーマに、「世界市民-from 八王子 to Hogoji-」をキャッチコピーとして実施しました。展示の他にも、東京富士美術館でエジプト館の副館長にインタビューした動画を流しました。地域の方が多く来訪してください、交流の場としても賑わいました。

LINE スタンプの作成では、八王子にある店舗をイラストに描き起こしました。都まんじゅう、くまざわ書店、まちなか休憩所八王子宿、オクトーレ、8ビート、ASA メール、シャーロックホームズ、佐藤書房の8種類の店舗と関連させ

たイラストで、汎用性の高いスタンプを作成しました。

三つ目の柱の広報活動では、SNS の投稿と学生ライターとして ASA メールで記事を書く活動をしました。

SNS の投稿では、Twitter と Instagram を投稿していました。どちらも学生自身で画像を作成して投稿を続けてきました。

朝日新聞八王子中央、西八王子販売店の月一冊子である ASA メールにもご協力いただき、学生ライターが記事を執筆しました。SNS の投稿でも、ASA メールをはじめ、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、聖教新聞、地域新聞ショッパーに取材をしていただき、桑都プロジェクトの活動が広まりました。

八王子の住民である読者の方々からメッセージをもらい、返信をしました。

③ 事業を実施した感想

本事業を通して、より八王子の魅力を知ることができました。桑都という名の通り、シュリーマンが来訪するほどの織物の街を知ることができました。また、今回ご協力いただいた店舗の方々、感想をくださる住民の皆様の温かさを感じました。桑都プロジェクトに関わった方々に感謝申し上げます。

今後も桑都プロジェクトとして、八王子の方々を関わり合いながら八王子の魅力を発掘し、街おこしを続けていきたいです。